

## 法学部 教授 長谷川聡

何を指して、何を意識して生きるか。何が幸福で、何が成功か。これらは自分らしい充実した人生を送るために、自分としての答えを持つべき普遍的テーマ。その重さや人生における本質性から友達と語るのを遠慮したり、問題とすることを回避したりする人も多いただろうが、感受性が豊かな学生の時にこそ一度は取り組むべき課題である。日々の生活で感じる抛り所のなさや、漠然とした不安の一部は、この点を突き詰めることで解消するだろう。

本書は、著名な哲学者である三木が、死や幸福、虚栄、孤独等について論じた小論をまとめたものである。どこから読み始めても良いが、最後には全編に通底する著者の生きることに對する真剣な姿勢が見えてくる。本書は戦時体制下の1941年に刊行されたが、今日でも、個人の生き方だけでなく、社会のあり方についても示唆を引き出せることが極めて興味深い。

本書は難解で、おそらく複数回読まなければ意味が分からない。解説本(例えば、岸見一郎「三木清『人生論ノート』を読む」白澤社)を理解の助けにしてもよいが、最後は、自分なりの示唆を導いてみよう。10年後に読み返せば、また別の示唆が見つかるだろう。新たな視角を得て、新たな世界を発見することは、新たな人生の形成を可能にする。「人生は運命であるように、人生は希望である。運命的な存在である人間にとって生きていることは希望を持っていることである」(本書「希望について」)。

人生論ノート 改版 / 三木清著  
新潮社, 1985.6(新潮文庫)  
本 館 X/080/Sh61/Mik



人生論ノート 改版 / 三木清著  
新潮社, 2011.10(新潮文庫)  
神田分館 /121.6/Mi24